

# 近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.77  
2024年1月

## 目 次

会長就任のご挨拶.....	3
	神戸医療センター 本田 富得
副会長就任のご挨拶.....	4
	敦賀医療センター 田路 章博
	大阪医療センター 山下 大輔
新年のご挨拶.....	6
	薬事専門職 河合 実
薬剤科紹介.....	8
	やまと精神医療センター 今本 京大
近畿国立病院薬剤師会 新体制組織図.....	10
委員会紹介.....	11
2024 年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告.....	14
	宇多野病院 白井 祐也
2024 年度 近畿国立病院薬剤師会総会 特別講演会報告.....	17
	兵庫あおの病院 川角 彩香
第 33 回日本医療薬学会年会 参加報告.....	18
	南和歌山医療センター 喜田 孝史
2023 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウム 参加報告.....	19
	神戸医療センター 清 純一
がん薬物療法認定薬剤師の取得について.....	20
	大阪南医療センター 佐々木 祐太

趣味のページ . . . . . 22

和歌山病院 仙石 歩夢

編集後記 . . . . . 23

## 会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長  
神戸医療センター 本田 富得

新年明けましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新春をお迎えのことと存じます。平素より近畿国立病院薬剤師会の事業にご理解とご協力を頂きまして、厚く御礼申し上げます。どうぞ本年もよろしく願いいたします。

また、石川県能登地方で発生した「令和6年能登半島地震」につきまして、犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

この度、近畿国立病院薬剤師会の会長職 2 期目を務めさせていただきこととなりまして、前期同様に、副会長、理事と共に薬剤師会の活性に繋げていけるよう全力を尽くしていく決意でありますので、会員の皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

さて、2023 年度は新型コロナウイルス感染症が、2 類から 5 類感染症へと変更となり、規制も緩和されました。近畿国立病院薬剤師会の事業におきましても、感染状況を伺いながら、WEB での事業活動から集合形式も取り入れて事業を行って参りました。各事業後のアンケートにおきましても、集合での開催に賛同いただける回答も多く寄せられており、今年度の薬剤師会の事業においても、WEB 形式での開催と集合形式の両方での開催と事業内容に見合った開催方法で事業を進めていきたいと思っております。

最後になりましたが、今年一年が会員の皆様において実り多き年となりますことを祈念申し上げますとともに、近畿国立薬剤部科長協議会、近畿国立病院生涯教育センターと協力しつつ、役員一同、会の活性に努めて参りますので、引き続き会員の皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

## 副会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 副会長  
敦賀医療センター 田路 章博

この度、本田会長より副会長を拝命しました敦賀医療センターの田路章博です。伝統ある本会(前身「近畿国立病院・療養所 循環器病センター薬学集団会」:昭和 36 年発足)の副会長という大役を賜り、光栄であると同時にその責任の重さに背筋が伸びる思いです。諸先輩方が築いてこられた本会の発展に尽力いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

本会は数年前より世代交代が謳われ、その年齢構成においては若い会員が大半を占めています。役員も例外なく若返り、経験から得られる知恵や成功体験に乏しいことは否めません。しかし、若い世代から生まれる新しいアイデアや革新的な取り組みが期待できると同時に、異なる視点や発想を尊重しやすく、状況変化への適応性が向上すると思います。

新型コロナウイルス感染症においては令和 5 年 5 月 8 日より 5 類感染症に位置づけられ、コロナ禍前の日常が戻りつつあります。本田会長や河合前会長の行動力の早さと、緊急度の高い課題への対応、強力なリーダーシップなどのお力により、環境が大きく変化していくなか、見事にこの難局に適応できました。本会は過去の経験を活かしながら柔軟に対応できる組織であり、国立病院機構における他ブロックにはない、随一の団結力があると思います。

病院薬剤師の人材不足が深刻化している一方で、デジタル技術は進展しています。デジタルの利便性は、新たな価値観やニーズを生み、コロナ禍の新しい働き方や行動様式への変化も下支えています。医療業界において DX の推進は必須の課題です。病院薬剤師が担う業務も多種多様である現代において、IT リテラシーの高い世代である若い会員が多いことは本会の強みです。

これからの本会の運営は、アナログとデジタルが融合した新しい形が予想されます。先人が培ってきた価値観や強みを大切に、本会の事業や委員会、地区会の運営に新しいアイデアを全会員が持ち寄り、革新的な取り組みを全会員で作っていただけるだけの地盤は整っています。本会への意識を高めていただき、是非とも積極的に参加することでイノベーションを起こそうという気概を持っていただければ幸いです。

皆様のお力添えをいただき、副会長として会長を支え、これからの本会に対して微力ながら努力精進する所存です。皆様にとって実り多く、活気溢れる会にしていきたいと心より願っております。皆様も存分に楽しんでください。

## 副会長就任のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 副会長  
大阪医療センター 山下 大輔

この度、本田会長よりご指名頂き、2期目の副会長を務めさせて頂くことになりました。皆様のご協力のもと、精一杯務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願い致します。

1期目の2年間で振り返ると、はじめはWeb中心での事業開催にあたり、Web会議システムの使い方やなぜか起こるハウリングに悩まされたり、本番ではWebならではのハプニングが起こったりと皆様にご迷惑をお掛けしながら、なんとか役員の皆様の協力のもと、事業を行って参りました。今ではWeb会議システムをプロ並み？に使いこなしているのではと自画自賛しております。昨年は新型コロナウイルス感染症が5類となり、総合医学会も広島で現地開催され、当会においてもハイブリッドや現地で事業開催を行うことができました。ようやく当会の目的のひとつである「会員相互の親睦」が行いやすくなってきました。先日の総会後の意見交換会では、80名を超える方に参加頂き、久しぶりに施設の垣根を越えた親睦ができ、参加された皆様の楽しそうな笑顔がとても印象的でした。旧役員の方には、各施設の業務も大変な中、当会の発展のためにたくさんの時間を費やして頂きましたことをこの場をかりて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

これからの2年間につきましては、今までの経験をもとに新しいWeb企画や現地開催の利点を活かした事業など、新役員の方からたくさんの事業計画を頂いております。当会の目的である「薬剤師の質的向上」と「会員相互の親睦を図ること」についてよく考え、目的を達成するために行動していきたいと思っております。300名を超える会員の皆様がしっかりと施設を越えた繋がりを感じ、親睦を深めることができれば、それが薬剤師の質的向上に繋がると信じていますので、そういった事業ができるように努力していきたいと思っております。

本田会長のもと、近畿国立病院薬剤師会のさらなる発展を目指し、事業に取り組んで参りますので、皆様のご理解ご協力と、積極的なご参加をお願い致します。

## 新年のご挨拶

国立病院機構 近畿グループ 医療担当 薬事専門職  
大阪刀根山医療センター 河合 実

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

薬事専門職の河合でございます。平素は近畿グループの事業にご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。

新年早々発災しました能登半島地震並びに2日に起こりました飛行機事故においてお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症発現からはやいもので5年目を迎えようとしています。昨年5月8日に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行し、様々な行動は個人の判断が基本となっています。我々は医療従事者であり薬剤師です。科学的根拠に基づいて物事を判断し、最新の正しい知識を得るよう心がけましょう。世間はこの規制緩和により、人流が増え街に活気が戻ったように思います。薬剤師を取り巻く環境についても学会や講演会などが現地開催されるようになり、少しずつですがコロナ禍以前に戻りつつあるように感じています。今年は10月に大阪の地で国立病院総合医学会が開催される予定ですので、近畿グループから多くの薬剤師に参加いただき、他施設の取り組みを学び、他施設の薬剤師との人脈を広げていただきたいと思います。

さて、我々の医療業界においては、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス報酬の同時改訂が予定されています。各施設の機能に応じて積極的な対応をお願いします。また第8次医療計画では「病院薬剤師の確保」が重視されています。薬剤師確保計画ガイドラインが策定され、その中には薬剤師の偏在指数などが詳細に記載されており、各都道府県単位で施策を講じて取り組まれます。我々NHO 病院においても、今まで以上に病院薬剤師の魅力を見学会等でアピールして薬剤師確保に努めていきたいと思っております。しかし近年、年度途中の退職者の増加、病院薬剤師を志望する学生の減少と国家試験の合格率の低下等により薬剤師確保が困難な状況となってきています。早期の内定通知等、優秀な人材確保へ取り組んで参りますので、就職説明会や施設見学会、職員の早期の情報共有に御協力宜しくお願い致します。

次に国立病院機構の経営ですが、各施設、コロナ前の患者数に戻らず、病床再編など非常に厳しい時代となっています。皆さんにおかれましては、経費削減や収入増にどんどんアイデ

アを出して、経営改善に取り組んで頂きますようお願い致します。

さて、2024年は、十干(じっかん)が甲(きのえ)で、十二支が辰(達)ですので、干支は甲辰(きのえ・たつ)となります。甲(きのえ)は十干で1番目であり優勢であることを表す他、まっすぐに堂々とそそり立つ大木を表しています。「辰」は十二支の中では唯一の架空の生き物、龍(竜)を意味します。水や海の神として祀られてきた龍は、竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものであり、「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられてきました。この2つの組み合わせである甲辰には、「昨年度のこれまでの努力が花開き、実り始めた成功という芽が成長していき、姿を整えていく」といった縁起のよさを表しているといえるそうです。

本田会長の体制も第二期となり、薬剤師会がさらに活性化し充実した素晴らしい年となるように思います。いままで築いてきた基礎をもとにさらに躍進していけるよう薬事専門職という立場で側面から支えさせて頂きたいと思います。

結びに、本年が国立病院機構、近畿国立病院薬剤師会と会員皆様にとって、さらなる躍進の年となりますことを祈念致しまして新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



## 薬剤科紹介



当センターは、精神障害、重症心身障害を対象とする精神科専門医療機関です。我々は、地域との調和を元に、生命の尊厳と人権を守り、患者様の視点に立った良質な医療の提供に努めます。

### 【病院概要】

当センターは近畿グループで唯一の精神科医療専門病院です。奈良市から南西方向にあたる大和郡山市の丘陵地帯に位置しており、付近には松尾寺・慈光院や「斑鳩の里」に法隆寺・中宮寺等の名所旧跡が多く存在しています。敷地内には史跡「笹尾古墳」があり、周囲を木々に囲まれ、環境は極めて閑静であり、精神疾患患者の治療・療養に好適な条件を具備しています。当センターは昭和42年4月に結核療養所から精神科医療に機能転換し、平成23年4月松籟荘病院からやまと精神医療センターに改称しました。

診療機能として、精神科救急・応急入院指定病院、認知症疾患、結核合併精神疾患、動く重症心身障害(入院及び通所)、精神科リハビリテーション医療、医療観察法に基づく医療等に特色ある医療を行っています。また、一般精神疾患においては、統合失調症、双極性障害、神経症、認知症、心身症、発達障害等幅広い診察を行っています。



『医療法許可病床数』283 床

1-1 病棟(精神閉鎖病棟)44 床、1-2 病棟(精神療養病棟)54 床

2 病棟(結核等身体合併症病棟)50 床

3 病棟、4 病棟(重症心身障害児(者)病棟)各 50 床

5 病棟(医療観察法病棟)35 床

### 【薬剤科概要】

薬剤科は、薬剤科長、常勤薬剤師 2 名の計 3 名の構成です。

#### 1.調剤業務

精神科医療は精神療法も有益ですが、ほぼ患者全員が薬物療法に携わります。医療安全に徹した調剤が必然で、コンプライアンスを考慮して、外来も含めて大半の処方が一包化調剤となります。処方監査では前回処方と比較して投与量の増量、減量または継続を確認しています。

#### 2.薬剤管理指導

医師の指示が発出すれば、退院までの間、薬剤管理指導を実施します。抗精神病薬や気分安定薬はハイリスク薬になり体重増加、錐体外路症状の出現頻度、プロラクチン値の変化、QTc 間隔延長、鎮静などの副作用を確認します。服薬アドヒアランスを高く維持することが再発率の低下のために重要になります。入院時には持参薬鑑別を実施しています。

#### 3.チーム医療

ICT、NST、褥瘡対策チームに薬剤師が関与しています。抗精神病薬は血糖値上昇傾向になることが多く、NST チームの多職種関与が有益であります。

#### 4.地域連携

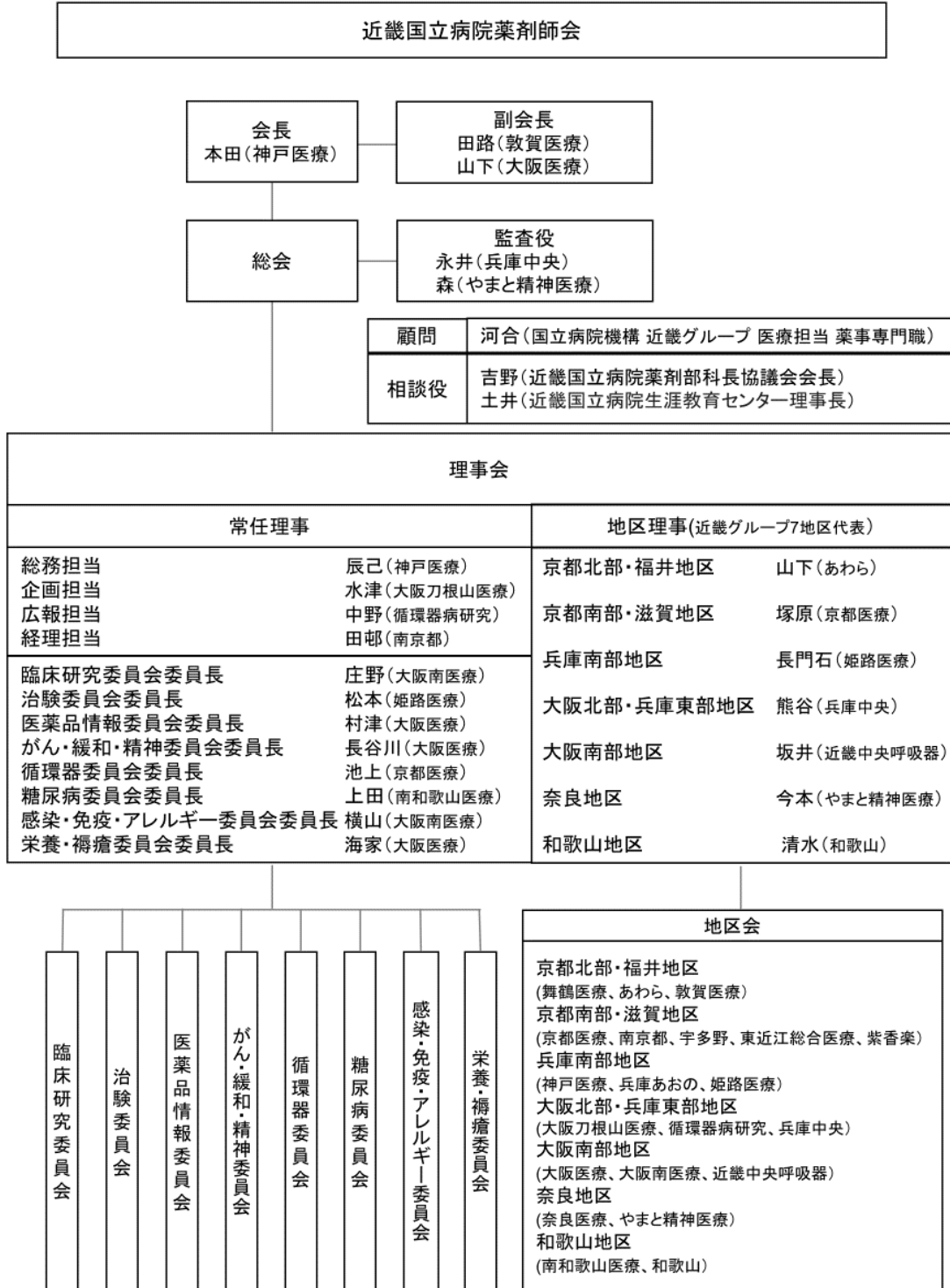
家族会、服薬教室など地域連携にも携わっています。家族会、服薬教室は患者本人や患者のご家族を対象に精神疾患について理解を深めて頂くことを目的としており、様々な職種とともに開催されます。薬剤師はお薬の役割・重要性を知って頂く、お薬に対する疑問にお答えすることでアドヒアランスの向上に努めています。

また、令和 5 年 1 月には奈良医療センターとともに、飛鳥薬薬連携協議会を発足し、KLEC のエージェンシーとして活動を開始しました。



(文責:今本 京大)

近畿国立病院薬剤師会 新体制組織図



## 委員会紹介

### 委員会名(委員長名)/事業計画

#### 1. 臨床研究委員会(委員長:庄野 裕志)

##### ① 臨床研究の推進

・学会発表、論文発表等を含めた臨床研究全般を推進するために、論文の抄読会(Web)を開催する。

##### ② 情報共有

・全国国立病院薬剤部科長協議会より依頼のある国立病院薬剤部科業績目録集を一括管理し、近畿国立病院薬剤師会の HP に掲載する

##### ③ 学術大会担当

#### 2. 治験委員会(委員長:松本 信彦)

① 病院間での治験実務者の連携強化、顔の見える関係性の構築を目的とし、治験や臨床研究等に関する相談会を実施する

・事務局業務、CRC 業務と分けての Web ミーティングやミニレクチャーの開催

② 事業計画①を実施する中で、治験業務に関する事例集を作成し、情報を共有する

③ CRC 認定試験の受験者への支援

・受験経験者からのアドバイス

・試験に関する情報共有

④ スズケン物流センター見学担当

#### 3. 医薬品情報委員会(委員長:村津 圭治)

① プレアボイドの情報集積

・前年より引き続き、プレアボイド報告の集積結果を薬剤師会 HP に掲載する。また、近畿国立病院薬剤師会の共同研究課題であるため、令和 6 年度京都医療センター倫理審査委員会の手続きを支援する。

② 情報共有の活性化

・各施設における薬剤師業務、医薬品情報に関する有用な資材の共有をし、各施設の業務の効率を上げ負担の軽減に繋げる。

③ スズケン物流センター見学担当

#### 4. がん・緩和・精神委員会(委員長:長谷川 英利)

##### ① 情報の共有

- ・がん・緩和・精神関連の新薬、学会、ガイドライン等に関する情報等の配信
- ・メーリングリスト等を活用した意見交換(症例の相談、情報収集方法など)

##### ② 勉強会の実施

- ・がん・緩和・精神関連の勉強会を開催
- ・他委員会と共催で勉強会を開催

##### ③ 認定取得希望者への支援

- ・がん・緩和・精神関連の認定取得希望者からの相談応需(キャリアプラン、症例査読など)

##### ④ シンポジウム担当

#### 5. 感染・免疫・アレルギー委員会(委員長:横山 晋一郎)

##### ① 当委員会に関連する資格取得の推進

- ・資格の取得に関連する講習会や学会の情報について、随時メーリングリストにて配信

##### ② 当委員会に関連するガイドラインや勉強会等の紹介

- ・随時、メーリングリストにて配信
- ・各委員それぞれが情報提供できるような体制の構築

##### ③ メーリングリストを活用した教育研修の実施

- ・前年度に引き続きメーリングリストを用いた症例検討会を定期的実施する

##### ④ スキルアップ研修会担当

#### 6. 循環器委員会(委員長:池上 洋平)

##### ① 循環器領域のトピックス配信およびメーリングリストを用いたアンケート調査の実施

- ・循環器疾患の中で特に学びたい分野についてアンケート調査の実施、興味がある分野の抽出を行い、トピックス配信や委員会主催の勉強会へ役立てる

##### ② 心不全患者教育の充実を図ることを目的とした情報の共有

- ・各病院の心不全パンフレットを共有することで心不全教育に関するツール改訂・作成の支援および各自の患者教育に関する知識のブラッシュアップを図る

##### ③ 各委員会と共同し、循環器関連の勉強会を実施する

- ・がん緩和精神と共同で腫瘍循環器に関する勉強会、糖尿病委員会と共同でDM 合併心不全や冠動脈疾患の勉強会など

- ④ 関連資格の取得支援
- ⑤ 各施設で学生指導に使用が可能な実習ツールについて検討する
- ⑥ 学術大会担当

7. 糖尿病委員会(委員長:上田 浩人)

- ① メールリストを活用した糖尿病トピックスの配信
  - ・ガイドラインや新規薬剤、学会、資格取得等に関する情報提供を行う
- ② 糖尿病に関連する Web を介した勉強会開催
  - ・糖尿病員会主催の勉強会を行う
  - ・他委員会と共同開催の勉強会を行う
- ③ スキルアップ研修会担当

8. 栄養・褥瘡委員会(委員長:海家 亜希子)

- ① メールリストを活用した情報配信
  - ・ガイドライン、学会情報、トピックスの情報提供を行う
- ② 栄養・褥瘡関連の Web 勉強会の開催
  - ・2か月に1回程度、基礎編～応用編まで徐々に難易度をあげていく形で行う
- ③ シンポジウム担当

## 2024 年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告

宇多野病院 白井 祐也

2024 年度 近畿国立病院薬剤師会総会が、2024 年 1 月 13 日(土)に大阪市中央公会堂にてハイブリッド形式で開催された。山下副会長の開会の辞より総会が開始となり、本田会長より挨拶を頂いた。議長には、近畿中央呼吸器センター 阿部副薬剤部長が選出され、2023 年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。

続いて、本田新会長より挨拶があり、新役員紹介の後、2024 年度事業計画案、予算案について審議され、全て承認された。続いて、近畿国立病院生涯教育センター 土井理事長より事業報告がなされた。また、近畿国立病院薬剤部科長協議会吉野会長より第 78 回国立病院総合医学会についての案内がなされた。最後に田路新副会長の閉会の辞をもって総会が終了した。

日 時:2024年1月13日(土) 13:00～14:40

開 催 場 所:大阪市中央公会堂

開 催 方 法:ハイブリッド開催

出 席 者:対面者 118 名、Web 81 名、委任者 108 名(会員数 338 名)

会則 12 条 5 項に従い、会員過半数出席により総会が成立

司 会:山下副会長(大阪医療センター 副薬剤部長)

開 会 の 辞:山下副会長(大阪医療センター 副薬剤部長)

議 長:阿部副薬剤部長(近畿中央呼吸器センター 副薬剤部長)

閉 会 の 辞:田路新副会長(敦賀医療センター 薬剤部長)

### 1. 報告事項

#### 1) 2023 年度事業報告

##### ① 事業報告

各担当理事、委員長または副委員長より 2023 年度事業報告について資料の通り報告がなされた。

・総務	辰己総務担当理事(神戸医療センター)
・企画	中野企画担当理事(国立循環器病研究センター)
・広報	別府広報担当理事(奈良医療センター)
・臨床研究委員会	古川委員長(南和歌山医療センター)

・治験委員会	田邨委員長(南京都病院)
・医薬品情報委員会	田路委員長(敦賀医療センター)
・がん・緩和・精神委員会	庄野委員長(大阪南医療センター)
・感染・免疫・アレルギー委員会	横山委員長(大阪南医療センター)
・循環器委員会	小田委員長(京都医療センター)
・糖尿病委員会	上田副委員長(南和歌山医療センター)
・栄養・褥瘡委員会	海家副委員長(大阪医療センター)

## ② 地区会報告

各地区理事より地区会活動について資料の通り報告がなされた。

・京都北部・福井地区	根上地区理事(舞鶴医療センター)
・京都南部・滋賀地区	西村副地区理事(紫香楽病院)
・兵庫南部地区	岩切地区理事(神戸医療センター)
・大阪北部・兵庫東部地区	小畑地区理事(国立循環器病研究センター)
・大阪南部地区	井後地区理事(大阪医療センター)
・奈良地区	田中地区理事(奈良医療センター)
・和歌山地区	坂地区理事(南和歌山医療センター)

## 2) 2023 年度会計報告

丸山経理担当理事(京都医療センター)より 2023 年度会計について資料の通り報告がなされた。

## 3) 2023 年度会計監査報告

福田監査役(姫路医療センター)より、2023 年 12 月 4 日に会計監査が実施され、適正かつ正確であったとの報告があった。

以上について審議の結果、賛成多数であった。

## 2. 新会長挨拶

本田会長(神戸医療センター)より就任の挨拶と新役員の紹介があった。

## 3. 審議事項

### 1) 監査役選出

宮部薬剤部長(舞鶴医療センター)より、永井薬剤部長(兵庫中央病院)、森薬剤科長(やまと精神医療センター)の推薦があり、賛成多数で承認された。



## 2) 2024 年度事業計画案

各担当理事、委員長または副委員長より 2024 年度事業計画案について資料の通り説明があった。

・総務	辰己総務担当理事(神戸医療センター)
・企画	水津企画担当理事(大阪刀根山医療センター)
・広報	中野広報担当理事(国立循環器病研究センター)
・臨床研究委員会	庄野委員長(大阪南医療センター)
・治験委員会	松本委員長(姫路医療センター)
・医薬品情報委員会	藤井副委員長(大阪刀根山医療センター)
・がん・緩和・精神委員会	長谷川委員長(大阪医療センター)
・感染・免疫・アレルギー委員会	横山委員長(大阪南医療センター)
・循環器委員会	池上委員長(京都医療センター)
・糖尿病委員会	上田委員長(南和歌山医療センター)
・栄養・褥瘡委員会	海家委員長(大阪医療センター)

## 3) 2024 年度予算案

田邨経理担当理事(南京都病院)より、2024 年度予算案について資料の通り説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

## 4. 近畿国立病院生涯教育センター事業報告

土井理事長(京都医療センター)より、2023 年度の開催概要について報告がなされた。

## 5. その他

近畿国立病院薬剤部科長協議会 吉野会長(大阪医療センター)より、2024 年 10 月に第 78 回 国立病院総合医学会が大阪にて開催されるため、各施設多数の演題登録、参加登録をお願いしたい旨の案内がなされた。



以上

## 2024 年度 近畿国立病院薬剤師会総会 特別講演会報告

兵庫あおの病院 川角 彩香

2024 年 1 月 13 日に開催された近畿国立病院薬剤師会学術講演会についてご報告いたします。

1 つ目の演題として、大阪医療センター薬剤部 宮城和代先生から『薬剤師からみたがん薬物療法の心血管有害事象』についてご講演を賜りました。こちらの演題では、がん治療における心血管疾患のマネジメントに関して教えていただきました。特に、がん患者の生命予後や QOL の向上を目指す新しい学際領域である腫瘍循環器学に焦点を当て、その中で薬剤師が果たすべき役割について学ぶ貴重な機会でした。がん治療における心血管有害事象の頻度やその影響について具体的なデータを交えながら解説され、症例を通して理解を深めることができました。また、アントラサイクリン系薬剤の心毒性や累積投与量が及ぼす影響が印象に残りました。再発に備えた投与情報の管理や副作用の早期発見、そして患者への正確な情報提供、患者教育が重要であることが強調されていました。がん罹患率が高まる中で、ワーファリンや DOAC を服用する患者に対する薬剤師の存在感が増していく今後を考え、その責任について身の引き締まる思いがいたしました。

2 つ目の演題として、神戸大学大学院医学研究科 乙井一典先生に『薬剤師さんに知ってほしい“がん関連 VTE”のキホンと最新事情』についてご講演を賜りました。講演では、がん患者における静脈血栓症 (CAT) 治療の難しさと、循環器科とがん診療科の連携の重要性が印象に残りました。高齢で再発がんを抱える患者の症例を通じ、保存的治療中に発生した DVT と肺塞栓症の治療において、ワーファリンから DOAC への切り替えが出血リスクを伴う難しい選択であることをお示しいただきました。特にがんの進行度によって静脈血栓症リスクが変動し、個々の状態に合わせて治療選択を行う難しさは、より細やかな薬剤選択や用量調整の必要性を実感させるものでした。一般的に抗凝固薬は処方漏れがないかも管理の一環であると思いますが、がん治療後の患者に関しては画一的に継続するのではなく処方を終了することがあると新たな認識を得ました。2023 年に発表された日本腫瘍循環器学会のガイドラインを参考に、処方の意図を読み解きながら今後の薬剤師業務に活かしていきたいと考えます。神戸大学病院では既にごがん患者における静脈血栓症治療に対しプロトコルとして運用されており、統一性をもつことで安定した治療が提供できるなど患者、医療者の両者にとって非常に有用だと感じました。

これからもこのような学びの機会を利用し、知識を up date していきたいと思っております。

## 第33回日本医療薬学会年会 参加報告

南和歌山医療センター 喜田 孝史

第33回日本医療薬学会が、2023年11月3日～5日に宮城県の仙台国際センターにて開催されました。開催方式はオンデマンド配信と現地開催とハイブリット型でした。どの会場も人が連日溢れかえり、立ち見が出るほど盛況な会でした。また、日本医療薬学会は全国の薬局・病院・大学を含む薬剤師と志が高い薬学生も参加する学会であり、幅広い知見が得られる場と考えます。

さて、私は今回、南和歌山医療センター(以下当院)における廃棄医薬品削減の取り組み、特に患者限定薬への対応について発表させていただきました。発表の目的としては、現在行っている業務内容の振り返りと課題の発見、他施設からの視点を得ることでした。そのため、発表にあたり、当院の施設概要や医薬品管理状況を出来るだけ国立病院機構所属の薬剤師以外でも分かりやすいように加工すること、患者限定薬など施設独自で使用している言葉の定義を十分に説明することの二つを意識して行いました。その結果、共通の課題を持つ病院の先生や現在の多種多様の供給不良で悩む薬局の先生などから意見をいただくことが出来、当院の取り組みをより良いものにしていくヒントが得られたと思います。

学会で発表するとなると、ハードルが高く感じられるかもしれませんが、ただ、個人的な意見として、現在取り組んでいる自らの業務が他施設や他の薬剤師に少しでも役立つと思った場合は発表に繋げても良いと思います。自分自身も井の中の蛙にならないよう、これからも定期的に発表していきたいと思っています。



## 2023 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウム 参加報告

神戸医療センター 清 純一

2023 年 11 月 25 日(土)に大阪医療センター 緊急災害医療棟 3 階 講堂で開催されました、2023 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウムに参加しましたので報告させていただきます。

今回のシンポジウムでは、「感染」、「癌・緩和」、「糖尿病」、「治験」の 4 領域において症例検討を行いました。それぞれの課題が事前に配られ、各々が事前学習した内容をグループ内でディスカッションを行い、一つの答えにまとめるグループワークでした。また、各グループに一人、ファシリテーターがつき、ディスカッションのサポートもあり、終始和やかな雰囲気で見意見交換が行えました。最後には、症例全体の講評と課題に対する解説があり、参加者がシンポジウムで得られた情報や知識の共有を行いました。

その中で、「感染」の症例には、気付かされるものがありました。感染の症例は、バンコマイシンの TDM についての課題でした。その課題の中に、4 回目の投与直前のバンコマイシンの血中濃度が記載されていましたが、実際は 4 回目投与後の血中濃度とのことでした。私は、文章のままを読み取ってしまい、血中濃度が高いため、減量を提案すると答えを出しました。しかし実際は 4 回目の投与後の血中濃度だったため、それを踏まえバンコマイシン TDM ソフトウェア PAT を用い、計算したところシミュレーションと同じ濃度でした。実際の臨床現場でもこのようなことが起こりえると思います。すべてを鵜呑みにせず、時には疑って検査値を見ることが必要であることを学びました。また、他の領域でも、最近改定されたガイドラインの内容や、あまり関わることのできない透析患者や治験患者の対応の内容があり、知識を深めることができました。

最後に、私は就職して以降新型コロナウイルスが流行し、このような集合研修が開催されませんでした。初めて集合研修に参加し、発言のしやすさや参加者の理解度の確認は、WEB に比べやりやすかった印象です。今後もこのような集合研修が開催されることを願っております。また、ご多忙の中、今回の 2023 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウムに向けてご準備いただいた先生方には大変感謝申し上げます。学んだ内容について、今後の日常業務に活かしていきたいと思っております。



## がん薬物療法認定薬剤師の取得について

大阪南医療センター 佐々木 祐太

がん薬物療法認定薬剤師は、日本病院薬剤師会が認定する5領域の専門・認定制度の1つで、がん領域において十分な知識と技術を用いて、質の高い業務を行っていると認められる場合に認定される資格とされています。

私のがん薬物療法認定薬剤師の取得を目指したきっかけは、薬剤管理指導業務などを通じて、患者の訴えや状態を把握した上で、薬学的な介入や他職種との連携を経験することでやりがいを感じたことでした。

がん薬物療法認定薬剤師を取得するための条件はいくつかありますが、取得において特にハードルとなるものに、①研修施設での研修または勤務歴、②がん患者への薬剤管理指導の実績 50 症例の 2 つがあげられるかと思えます。

①については、近年のがん薬物療法の拡大と高度化、求められる多職種チームや医療連携等への対応、がん医療水準の均てん化の推進に寄与するため、がん薬物療法認定薬剤師を増加させる取り組みが行われています。詳細については割愛しますが、研修期間の短縮と暫定研修施設の認定がなされています。近畿グループ内でも研修施設は増えており、暫定研修施設も含めると、大阪医療センター・京都医療センター・舞鶴医療センター・大阪南医療センター・姫路医療センター・南和歌山医療センター・敦賀医療センターの7施設に拡大しています。まだまだハードルは高いかもしれませんが、これらの施設から認定者を輩出し、さらに取得しやすい環境になることを期待します。

②に関して、私が認定を取得するにあたって、1症例目として書き上げた症例は、大腸がんでは抗 EGFR 抗体を使用している患者のざ瘡様皮疹に対する皮膚障害対策(ミノマイシンと保湿剤)とそれに伴う酸化マグネシウムの用法変更提案(ミノマイシンとの相互作用回避)、皮膚障害悪化時のステロイド強化という、今思えば、まさに教科書通りの症例でした。最近では、日本医療薬学会や日本臨床腫瘍薬学会主催の学術大会やセミナーなどで、薬剤管理指導における介入のポイントや介入症例の書き方の解説も充実しています。こうしたセミナーなども活用して、まずは1症例書いてみることをお勧めします。

がん薬物療法認定薬剤師取得後は、専門性を活かしてレジメン管理業務やチーム医療にも積極的に携わることができるようになりました。現在の大阪南医療センターでは、腫瘍内科と協同してがん薬物療法サポートチームの立ち上げに携わり、免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象(irAE)を中心としたがん薬物療法全般のサポートを行っています。この手

ームでの活動を契機に irAE の早期発見につながった症例も経験しました。今後も認定薬剤師として恥ずかしくない取り組みを行っていくことができればと思います。

最後に、がん薬物療法は年々高度化、複雑化の一途をたどっています。また、術前・術後の周術期にも薬物療法が適応されるようになってきており、がん薬物療法認定薬剤師の活躍の場はこれからどんどん拡大していくと考えます。興味を持たれた先生は、ぜひ取得を目指してみてください。

## 趣味のページ

和歌山病院 仙石 歩夢

舞鶴医療センターの多田先生より引き継ぎました和歌山病院の仙石です。多田先生とはちょうど COVID-19 が流行り始めた時に内定式で出会いそれ以来お世話になっております。

COVID-19 が流行りはじめる前にハマっていたのを思い出して最近やっている1つが、知ってらっしゃる先生方も多そうですが Plague Inc.です。私はこのジャンルが非常に好きで、今回少し紹介させて頂こうと思います。

Plague Inc.は細菌、ウイルスや、真菌、プリオン、果てにはゾンビウイルスや吸血鬼など映画などでよく見かける病原体を人類全体に感染させるというゲームです。ただこの作中の人類は強力な意志と技術を持っており、時間かけすぎると病原体を易々と根絶するワクチンを開発してきますのでそれまでに全人類に感染させる必要があります。現実とは違う所なども多いですが、空いた時間についついやりたくなりますね。



そして、もう1つハマっているのが Microsoft Flight Simulator です。これの

凄いいところは世界中のあらゆる場所を飛ぶことが出来、しかも現実と見紛うようなグラフィックをしている事です。実際にスクリーンショットした画像を載せていますが、これは私が働いている和歌山病院とすぐ横にある煙樹ヶ浜が写っています。次の写真は南紀白浜空港で、検索で出てくる写真と見比べて頂きたいぐらいです。他にも有名な都市や観光名所は再現度が高く、実際に見に行っているかのように、安全に空から好きなように景色を見ることが出来るため夢中になってしまい時間がどんどん過ぎていきます。Google Earth でストリートビューなどの景色を見るのが好きな方や、GeoGuessr で楽しめる方は更に楽しめるのではないのでしょうか。

いずれは VR やメタバースなどが広く普及したら宇宙すら簡単に旅行体験出来る日が来ると思うと日々楽しみです。



今回このような機会頂きありがとうございました。

次のバトンは近畿中央呼吸器センターで同期でもある多方先生へお願いしたいと思います。よろしく願います。

## 編集後記

- ◆ このたびの石川県能登地方を震源とする令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のために尽力されている方々に深く敬意を表します。
- ◆ 総会后、久しぶりに意見交換会を開催することができました。再び、皆様とお会いして交流を深められたこと、幸せに思います。
- ◆ 薬剤師会は今年度より新体制となり、精力的に活動していきたいと思いますので、会員の先生方もご協力のほど、よろしくお願いたします。広報担当も新メンバーとなり初めての会誌を発行することができました。
- ◆ 新体制となり間もない中、短期間にもかかわらず寄稿いただいた先生方、ありがとうございました。今号も充実した内容となっています。皆様、最後までご熟読いただきありがとうございました。

(N.K.)

近畿国立病院薬剤師会会誌	第七十七号 令和六年一月発行
発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局 (独立行政法人国立病院機構神戸医療センター薬剤部内)	神戸市須磨区西落合 3-1-1
発行人 会長 本田 富得(神戸医療)	
編集 広報担当理事 中野 一也(循環器病研究)	
広報委員 佐々木 祐太(大阪南医療)	
野田 拓誠(舞鶴医療)	
正木 美有(循環器病研究)	